

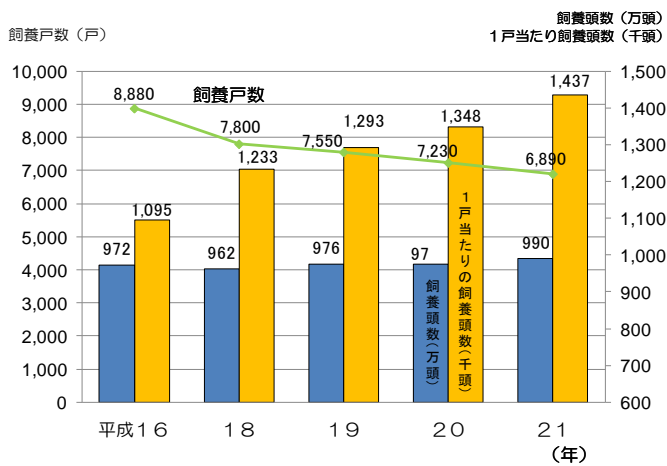
豚肉



◆飼養動向

21年2月現在の1戸当たり飼養頭数は1,437頭に(世界農林業センサスの調査年はデータなし)

図1 豚の飼養戸数および飼養頭数



資料：農林水産省「畜産統計」

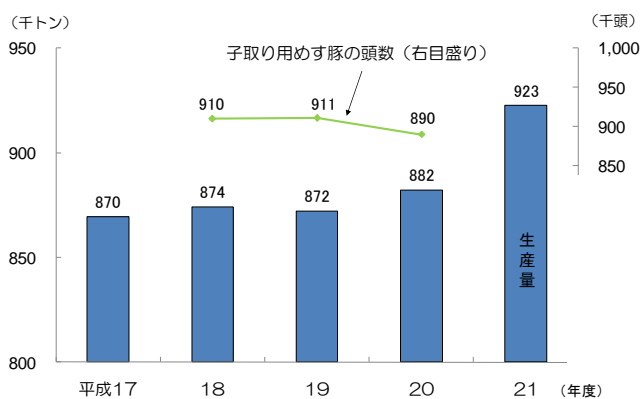
注1：各年2月1日現在

2：17年、22年は世界農林業センサスの調査年のためデータがない

21年2月1日現在の豚の飼養戸数は6,890戸(前年比▲8.7%)と小規模の飼養者層を中心に減少したが、飼養頭数は9,899千頭(同1.6%)と、堅調な卸売価格を反映して2年ぶりに前年を上回った。その結果、1戸当たりの飼養頭数は、前年に比べ89頭増えて1,437頭(同4.3%)となった(図1)。

◆生産 21年度は、92.3万トン(4.6%)と2年連続で増加

図2 豚肉生産量と子取り用めす豚の頭数



資料：農林水産省「畜産統計」、「食肉流通統計」

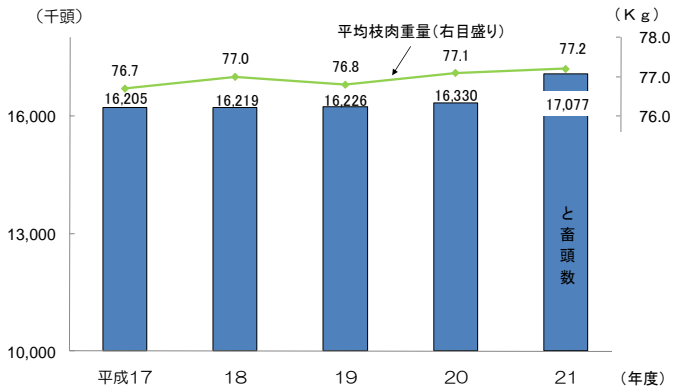
注1：生産量は、部分肉ベース

2：子取り用めす豚の頭数は、各年2月1日現在。17年、22年は世界農林業センサスの調査年のためデータがない

豚肉生産量は、夏期の暑熱の影響による子豚生産率の低下や子取り用めす豚頭数の減少などが影響し、19年度まではほぼ横ばいで推移してきた。20年度は堅調な卸売価格や衛生対策による事故率低減などから、前年度を上回り、21年度も引き続き、子取用めす豚頭数の増加や衛生対策の効果から前年度比4.6%増の92.3万トンと2年連続で前年度を上回った(図2)。

豚肉 [国内]

図3 豚のと畜頭数と平均枝肉重量



資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：平均枝肉重量は全国平均

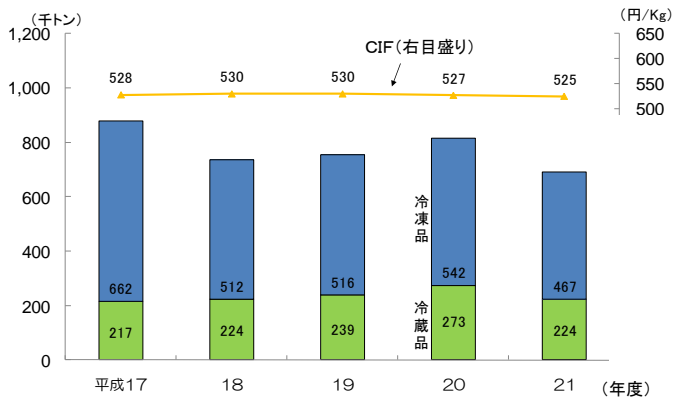
豚のと畜頭数は、18年度以降、堅調な豚肉需要を背景に増加傾向で推移し、21年度は17,077千頭(4.6%)となった。

21年度の平均枝肉重量は、暖冬の影響などから成育状況が良好となったほか、母豚の更新などにより大漢などの等外が増えたことから、平均77.2kg/頭(0.1%)と過去最高となった(図3)。

◆ 輸 入

輸入量は69万2千トン(▲15.1%)と3年ぶりに減少に転じる

図4 豚肉の冷蔵品、冷凍品別輸入量とCIF価格



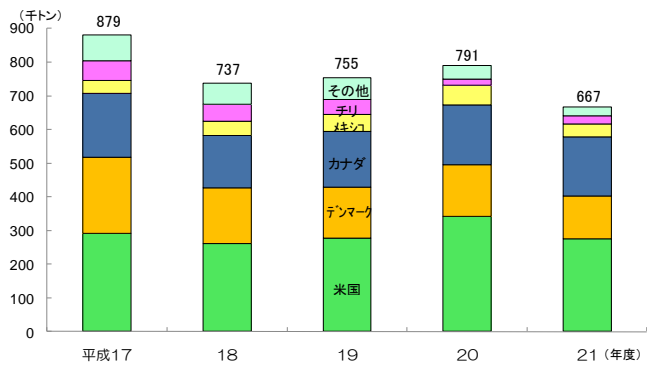
資料：財務省「貿易統計」

注：部分肉ベース

豚肉の輸入量は、国内外でのBSEや高病原性鳥インフルエンザ発生による牛・鶏肉の代替需要により増加傾向で推移してきた。18年度は期首推定在庫が高水準だったため輸入量は前年度を下回って推移、その後は景気低迷による低価格志向を背景に20年度まで2年連続で前年度を上回った。しかし、21年度は国内生産量の増加により国産冷凍品を中心に期首推定在庫が高水準だったため、加工仕向け

用としての輸入冷凍品の落ち込みが目立った。期首推定在庫は69万2千トン(▲15.1%)、内訳は、冷蔵品が22万4千トン(▲17.9%)、冷凍品が46万7千トン(▲13.7%)となった(図4)。

図5 豚肉の国別輸入量



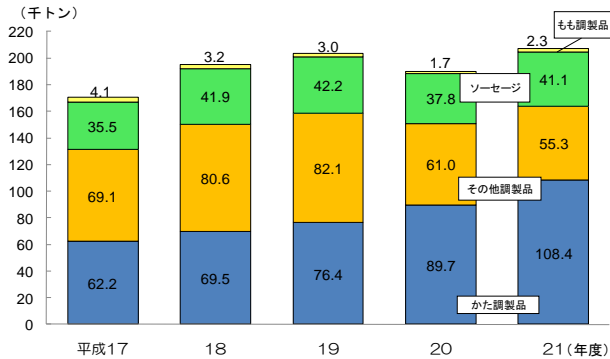
資料：財務省「貿易統計」

注：部分肉ベース

国別輸入量の推移をみると、21年度は、米国が28万トン(▲19.5%)と大幅に下回ったほか、カナダ17万トン(▲2.0%)、デンマーク13万トン(▲26.3%)、メキシコ4万トン(▲33.9%)と前年度を下回った。(図5)。

調製品

図6 豚肉調製品およびソーセージの輸入量



料：財務省「貿易統計」

注：もも調製品：1602-41-090

かも調製品：1602-42-090

その他調製品：1602-49-290

ソーセージ：1601-00-000

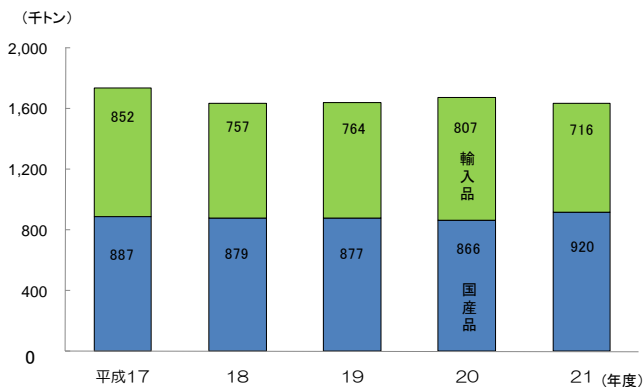
豚肉調製品(豚の肉またはくず肉のみから成るものを除く。)やソーセージは、19年度をピークに順調に輸入量を増加させてきたが、19年度後半に起きた中国産冷凍ギョーザ事件を契機に、20年度は中国産調製品を中心に減少に転じた。21年度は景気低迷による低価格志向を背景に、より安価な輸入品に頼る傾向が強くなり、調製品全体では16万6千トン(8.9%)、ソーセージは4万1千トン(8.7%)と前年度を上回って推移した(図6)。

◆消費

推定出回り量は、164万トン(▲2.2%)と3年ぶりに減少に転じる

推定出回り量

図7 豚肉の推定出回り量



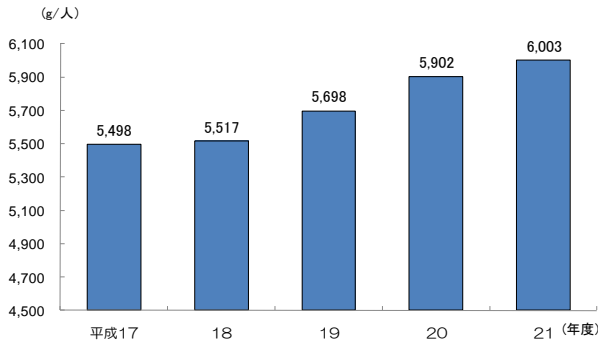
資料：農林水産省「食肉流通統計」,財務省「貿易統計」,農畜産業振興機構調べ

注：部分肉ベース

豚肉の推定出回り量は、19年度以降、増加傾向で推移し、安全性の重視、国産志向の高まりや、さらに21年度は国産品の枝肉卸売価格の低下などを背景に需要が高まったことから、21年度に92万トン(6.3%)と3年ぶりに前年度を上回った(図7)。しかし、輸入品が72万トン(▲11.3%)と前年度を下回ったことから、全体では164万トン(▲2.2%)と3年ぶりに減少に転じた。

家計消費

図8 豚肉の家計消費量(1人当たり)



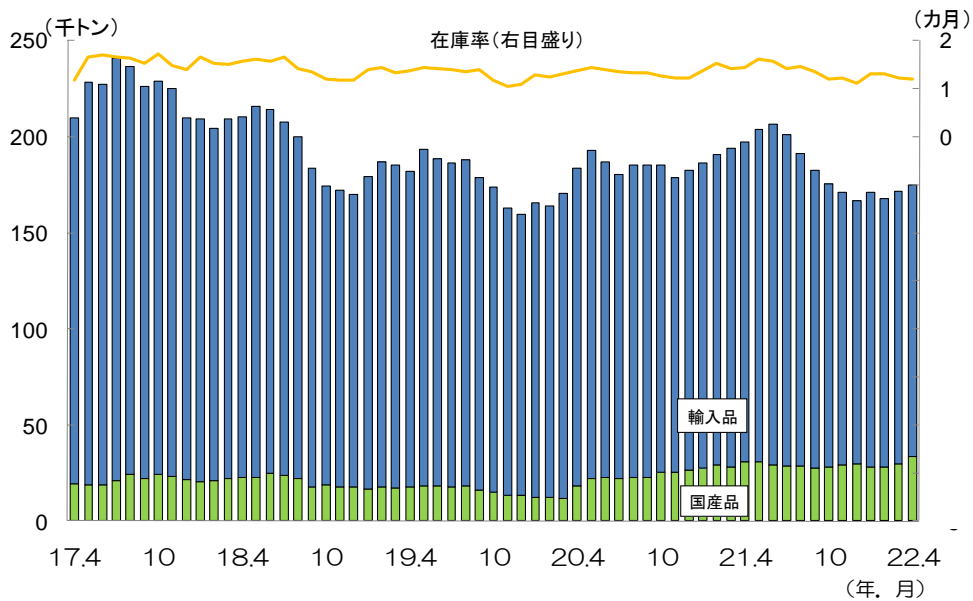
資料：総務省「家計調査報告」

18年以降の豚肉の家計消費量は、牛肉に比較して値ごろ感があることや国産品の小売価格などから堅調に推移し、21年度は豚肉の家計消費量は6,003g/人(1.7%)となった。しかし、小売価格の低下(100グラム当たり131円(▲5.3%)を反映し、金額ベースでは7,884円/人(▲3.7%)と前年を下回った。

◆在庫

21年度期末在庫は、2年ぶりに減少し17万2千トン(▲11.5%)

図9 豚肉推定期末在庫量と在庫率



資料：農畜産業振興機構調べ

注1：在庫率＝在庫量／推定出回り量

2：部分肉ベース

豚肉の推定期末在庫量は、19年度以降生産量は増加し、推定出回り量はほぼ横ばいに推移したことに伴い、20年度

の期首在庫量は19.4千トンと高水準であったが、国産卸売価格の低下に伴い、輸入量も減少、21年度の期末在庫量

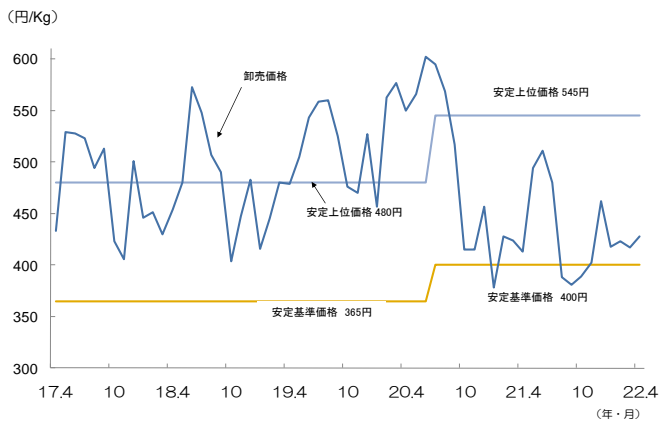
は 17 万 2 千トン(▲11.5%)まで取り崩しが行われた。内訳は、国産在庫量は 3 万トン(7.4%)、輸入品在庫量が 14

万 2 千トン(▲14.7%)となった(図 9)。

◆枝肉卸売価格(東京・省令)

前年度を 60 円下回る 433 円/kg(▲12.2%)

図 10 豚肉の卸売価格(東京・省令)



資料：農林水産省「食肉流通統計」

注 1：消費税を含む

2：省令は、極上と上の加重平均

17 年度以降、季節的変動はあるものの、卸売価格はほぼ横ばいで推移していたが、19 年度後半から家計消費や業務用需要が増加し、さらに 20 年度前半は中国産冷凍ギョーザ事件を契機に、国産志向が高まったことから、600 円/kg を超える記録的な高値をつけた。20 年度後半以降、生産量の増加と景気低迷などにより、価格は軟調に推移し、21 年秋には 300 円台後半まで値を下げた。このため、畜産業振興事業に基づく調整保管が 6 年ぶりに実施された。民間団体が行う国産豚肉の保管について、その経費の一部を当機構が補助するもので、約 7 万頭規模で実施した結果、卸売価格(東京・省令)は、6 月に 511 円/kg まで回復し、21 年度の平均卸売価格(同)は、433 円/kg(▲12.2%)(同)となった(図 10)。

◆小売価格

21 年度の小売価格、前年度から値下がり

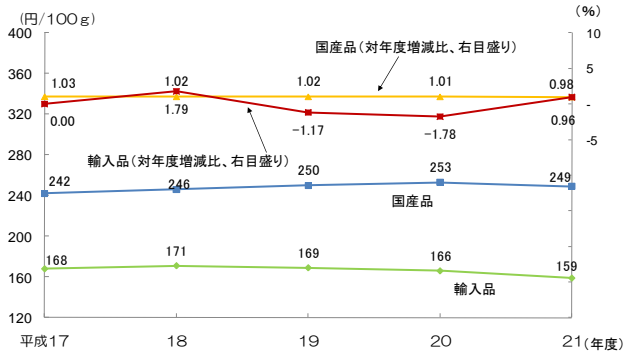
「ロース」の小売価格(通常価格)は、21 年度は、国産品は 249 円/100g(▲1.6%)、輸入品は 159 円/100g(▲4.2%)となった。国産品は生産量の増加による卸売価格の低下を反映し、輸入品は安価な国産品に比較しさらに値を下げた(図 11)。

また、「ロース」の小売価格(特売価格)は、21 年度は、国産品は 185 円/100g(▲7.0%)とピークとなった 20 年度から値下がりがした。輸入品についても前年度をかなり大きく下

回り、100 円を切る 99 円/100g(▲13.9%)と、景気低迷を背景として値下がりがした。(図 12)。

豚肉 [国内]

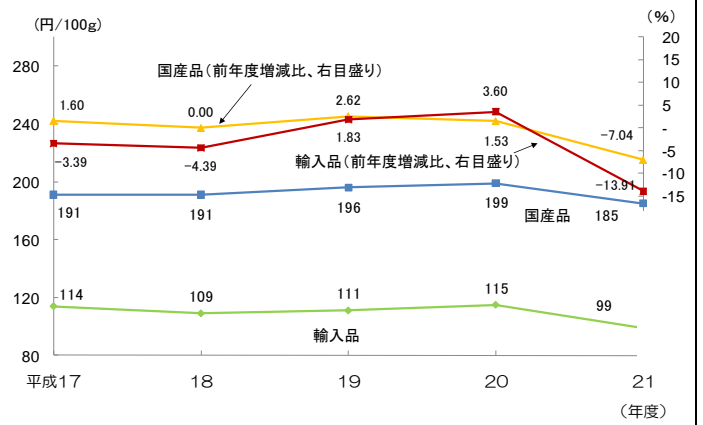
図11 豚肉(ロース)の小売価格(通常価格)



資料：農畜産業振興機構調べ

注：消費税は含まない。

図12 豚肉(ロース)の小売価格(特売価格)



資料：農畜産業振興機構調べ

注：消費税は含まない。